

『こすげ冒険学校』報告

こすげ冒険学校村長 贅田（にえだ）隼人（だにえる・自然文化誌研究会運営委員）

今回の冒険学校は天気に恵まれ、川遊びをはじめとして、工作、虫取り、キノコ採りなどたくさんの遊びに打ち込める7日間となりました。

例年よりリピーター、中学生の参加率が高く、初日から様子見することなくどんどん活動をしていく印象でした。昨年は参加できなかったけれど、今年はようやく参加できたという子たちもあり、久しぶりに会う友達やスタッフと嬉しそうに語り合う姿もあり、終始よい雰囲気です。冒険学校が開催できたと感じます。

小菅村に副村長が設置されたことをきっかけに、今回の冒険学校では副村長を作りました。相談相手がいることで僕の気が楽になりましたし、全体の把握を任せて参加者とじっくり向き合う時間をとることができました。特に、僕も小集団行動のリーダーとして参加者を連れて行くことができたのがとても有り難く、キャンプ場を離れて一夜を明かすことに少し不思議な感じがしつつも、しっかり楽しむことができました。また、今回虫取りに同行していて、子どもたちがやりたいと想定していたことを上回るような内容や熱量で取り組むスタッフが本当にかっこよく、僕自身、更に研鑽を積まなくてはと刺激を受けました。

スタッフたちの尽力、保護者のみなさまが準備して送り出していただいたこと、参加者のみんなが冒険学校に真剣に向き合ってくれたことのどれか一つが欠けては、冒険学校を無事に終えることができませんでした。本当にありがとうございました。来年、また小菅の地で会いましょう！

副村長 和田峻太郎（りょうたろう・本職は小学校教諭）

今回、INCH キャンプで初となる「副村長」をさせていただきました。副村長の打診をいただいたときは、私がそのような立場でいいのだろうか、キャンプで初めて創られたポジションであり、一体何をすべきなのだろうかと困惑しました。

キャンプが始まると、今まで過ごしたキャンプと似たような時間が流れていました。子どもが川や工作など全力で遊び、スタッフが安全に配慮しながら子どもを見守る。私自身も子どもたちが、「副村長！一緒にブランコやろう！」や「副村長！ナイトハイク行こうよ！」と、今まで参加した時よりも話しかけてくれたのが嬉しかったです。

また、村長が小集団活動に行っている間は、ミーティングの進行や夜のプログラムの計画をさせていただきました。初めて、自分が子どもと進めるミーティングは、いつも仕事で行っている感覚と異なり、新鮮でした。

最後に、準備からキャンプ中、片付けまでたくさん助けていただき、励ましていただき、協力していただき、ありがとうございました。

スタッフ 宮下倫太郎（みやりん・東京学芸大学3回生）

3度目の冒険学校は楽しさと同時に悔しさを感じるものとなりました。

小集団行動では初めてリーダーとしてチームを率いる立場になりました。準備段階でチームとしての方向性を定めることができなかったことが心残りです。結果として火起こしや、テントの設営、調理などみんなで協力してできたこともたくさんあり、子どもたちは楽しんでくれましたが、せっかくの普段とは違う環境に身を投じる機会なので、もっと刺激的で高いレベルの小集団行動にしたいです。課題が多く残る活動でしたが、寝る前にみんなで過ごした時間は子どもたちとの距離がまたぐっと近づいたような気がして良かったです。

釣りプログラムでは大きな成果が得られました。例年釣れず難しいと言われる中で、イワナを4匹も釣ることができ、素直に嬉しかったです。同行するスタッフの負担や、仕掛けづくりなど、問題点は幾つか見つかりましたが、来年までに解決策を見つけてまたチャレンジしたいと思います。

たくさんの課題と反省がありながら、今年の冒険学校も無事に楽しく終えることができました。この文章を書きながら思った「ああしておけば…」を改善できるよう、来年また頑張りたいと思います。



<参加者の感想>

安藤 舜悟くん (小学校5年生)

【初めての小菅村冒険学校1週間】

武蔵小金井駅から猿橋駅に電車に乗って行きました。ラグビーの友達と行ったのでワクワクしかありませんでした。つらかったことはありません。料理などは先生が全部やってくれました。子どもはみんな自由に遊んでいました。

楽しかったことは川遊びと虫取りで、虫取りでは9cm大のカブトムシを捕まえました。気が合う人が沢山いました。例えば川遊びが好きな人など、みんなと一緒にずっと川遊びで水をかけ合いました。新しい友達ができ、ラグビーの仲間もいました。カブトムシ遊び禁止で、ボールがなくても遊べることを知りました。

今までの合宿と違ったことは時間割のない事と寝る時間は10時に決まっていたけど起きる時間が決まっていなかったことです。

自分は遊びたくて5時半に起きました。早く起きたら、散歩に出かけたり沢山遊んで、朝ごはんもより美味しく感じておかわりしまくりました。早起きが習慣になりました。また絶対に行きたいです。皆さん一緒に遊んでくださりありがとうございました。

池森にくん (小学校5年生)

今年もありがとうございました。今年の冒険学校は雨が少なかった。遊べる時間がたくさんあり、1週間が去年より短く感じました。

今年は初めての小集団が一番楽しかったです。去年から行きたいなと思っていたので、行けてよかったです。小集団では、電気もガスもないところでサバイバル生活をするのがすごく楽しかったです。かまどは石で作ったり、川の中に石で円を作りその中に飲み水などを入れて冷やしたりしました。しかも、夕方に猿の群れを見られたのでラッキーでした。暇なときはみんなで水切りなどをしたり、音楽を聴いたりして、みんなで楽しみました。夜ご飯に肉を食べるとき、包丁を忘れたと気づきましたが、友達がサバイバルナイフを持ってきたので、肉を切ることができました。太い棒を切ってたき火にいれて燃やそうとすると、そのサバイバルナイフのノコギリで短く切ることができました。サバイバルナイフはすごい役に立つなと思いました。朝にはみんなでココアを飲み、パンにジャムをつけて食べました。帰るときはあいにくの雨でしたが、無事に帰ってこれてよかったです。昔の人は、こうやって生活してたんだというのが分かり、貴重な体験でした。



安倍健くん (中学校1年生)

4年前の夏に一度行ったきりでしたが、久しぶりに小菅のキャンプに行き思い出しに触れることもあり、楽しかったです。特に、印象に残ったのは小集団です。理由としては、人里離れ、ガス・水道・電気そして電波も通っていない所でテントを張り、そこで一晩を越したからです。スタッフさんはとても頼りがいのある人たちでした。あと、ハルちゃんのご飯がおいしかったです。

安倍隼くん (小学校4年生)

はじめてこすげにきて、さいしょはふあんだったけど、どんなれていき、三日目になると夜にむしとりまで行きました。まきを切ったりすることがたのしかったです。すきになったけしきは、おだきでした。はるちゃんのごはんがとくにおいしかったです。来年もまたきます。

鈴木真理さん (小学校5年生)

人生初めての1週間のキャンプだったのでとても緊張していました。けれど、猿橋駅からバスで移動する時に、大学生が話しかけてくれたので、その時からあまり緊張なくなりました。

キャンプ場に着くと、まだ子供は少なく大学生がたくさんいました。すぐに昼食だったのであまり子供と喋れなかったけれど、習い事をいつも手伝いに来てくれる大学生がいたので、その大学生と一緒に昼食を食べた後に川遊びをしました。川は思ったよりも水が冷たくて、最初はあまり入れませんでした。けれど、だんだん慣れてきて気持ちよかったです。

他にもキャンプ場では、竹馬や工作をしました。特に工作では、3、4日目くらいに全冒険学校ツルツル木材選手権があり、そのためにヤスリを取り合うようにして木を削るのが楽しかったです。自分で彫ったお魚のマスコットもうまくできて嬉しかったです。夜には普段あまり食べない夜食が食べられて嬉しかったです。あと、このキャンプで仲良くなった4年生のさらちゃんとはるちゃんと恋バナをしました。こういう機会はあまりなかったので新鮮で楽しかったです。

最初、キャンプに着いたときは、皆何をしているんだろう、と、自由すぎてびっくりしたけど、そこから自分でいつ、何をすればいいのか考えるのが楽しかったです。他にも沢登りや薪割りなど、そこでしかできない企画が楽しかったです。来年は小集団に挑戦したり、友達を作って、もっと楽しいキャンプにしたいです。

スタッフの佐々木正久さんのYouTube「まー君のナチュラルフ」で、「こすげ冒険学校」の活動の様子が観られます！！
(チャンネル登録よろしくお願いします)

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう